

心理尺度データベースの作成*¹

－学内LAN上での教育的利用のために－

永田忠夫・新美明夫*²

Construction of Psychological Scale Database －for Education Use on the ASU LAN－

Tadao Nagata・Akio Niimi

I. 目的

本学においては、心理学的研究方法（観察・調査・面接・実験等）を用いて卒業研究・論文・レポートを作成する授業科目が、文化創造学部、コミュニケーション学部、現代社会学部等に数多く開講されている。こうした授業科目を、限られた授業時間の中で、より学問的な成果が生み出せるように展開するためには、学生の能力を考慮し、学習意欲を動機づけるような教育媒体・教育方法を工夫することが必要となる。

心理学的研究を学生に指導する場合、次のような流れ（過程）をふむ。まず第1ステップとして、学生には、どのような問題を研究対象とするかを選択させねばならない。日常的な興味関心や経験を通して、あるいは心理学関連の授業等の受講や自己学習を通して、人間の意識・行動についての疑問や課題を解決するようなテーマを発見し、研究の対象領域を絞っていく必要がある。しかし、学生は何をテーマにすべきかを迷うことが多い。その選択の手がかりとして、研究テーマになりうる対象や研究の際に用いられる心理的概念・用語を講義したり、それを提供してくれる入門書や概論書を紹介したりする。

第2ステップとして、心理学的研究領域の中で自分の研究対象を明確にし、過去の研究論文を検討し（文献研究）、仮説を設定することになる。記述的仮説もあるが多くの心理的な2つあるいはそれ以上の変数の関連についての相関関係的仮説や因果関係的仮説を設定する。膨大な量がある論文の中から学生が自分の必要とする文献を探すことは容易なことではない。この段階での効率的で自主的な学習を促進する方法として、学術雑誌等に掲載された論文を中心とする「文献データベース」の利用を指導する。「文献データベース」は、本学の図書館に雑誌掲載論文一覧などの書籍やインターネット上で公開しているものがある。本学での学習指導用の「文献データベース」としては、愛知淑徳短期大学コミュニケーション学科時代

*¹ この研究は、平成12年度愛知淑徳大学研究助成(共同研究)を受けた。

*² 愛知淑徳大学コミュニケーション学部コミュニケーション心理学科

から作成されている「心理学関連和文献」があり、愛知淑徳大学コミュニケーション学部コミュニケーション心理学科のホームページ(<http://www.aasa.ac.jp/faculty/psych/index.htm>)から利用することができる(ただしデータベース利用は学内利用のみ可能)。

第3ステップとして、設定された予測や仮説を検証するためにはどのようなデータの収集法(観察・調査・面接・実験等)が適切かを選択しなければならない。この選択の知識や技術についての情報は、本学では心理学に関係する講義や基礎演習、研究法・資料収集法などの演習をとおして学習させている。しかしながら、学生全員がすべてのデータ収集法を十分に学習できるカリキュラムを受講しているとはいえず、研究演習の際にあらためて指導をしつつ対処することになることが多い。

データの収集法が選択されると、第4ステップとして検証するための分析データを収集する企画を立てることになる。研究者が得られる測定データは、研究者が変数をどれだけ人為的に統制しているかの違いや誰がどのような方法で測定、評価、報告するのかの違いがあるにせよ、行動・反応の観察報告や自分の心理状態や行動の内省報告(他者の認知の推測などを含む)を被験者に求める(研究者自身が行うこともある)ことによって得られる。その場合、行動・反応の観察記録や内省報告を求める方法(観察項目とその記録法、質問項目と回答形式)を検討することになる。被験者に内省報告を求める質問項目を作成する段階で、自分の研究対象となる心理的概念と具体的行動レベルとの関係が十分把握できていない学生にとって、質問文作成(ワーディング)や心理尺度を作成することは困難を極める。こうした学生に有効と思われるのが、過去の研究に使用された調査票、心理尺度、心理検査などを参照することである。心理尺度データベースをインターネット上で検索できるものとして廣岡秀二(三重大学)の運営する「心理尺度(項目)データベース(<http://epsycho.edu.mie-u.ac.jp/hirooka/mpsbmain.asp>)」がある。また、心理学関係文献のうち質問項目が掲載されているものを示した清水和秋(関西大学)の運営する「心理学関係論文タイトルデータベース(<http://www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/~shimizu/database.html>)」もある。いずれも多数の心理尺度が掲載され検索できるのであるが、得られる情報は尺度名と掲載文献情報のみであり、自分の研究対象となる変数の心理的概念(用語)が明確でないと適切な検索ができないことになる。また、たとえ検索できた心理尺度があっても、いちいち文献を実際に手に入れて自分の研究対象や変数としたい内容の項目であるかどうかを、確かめる必要がある。この作業は学生にとって、かなり負担が大きく、限られた時間内で指導するには制約が多い。心理尺度の項目内容まで掲載した文献としては、堀洋道ら(1994, 2001a, 2001b, 2001c)のものがある。しかし専門的な利用を前提としているので採用基準が厳密で、収録されている尺度数が少ない。したがって興味をもつ対象の幅が広い本学の学生達には十分なものとはいえない。

第5ステップでは予備実験・調査、第6ステップでは本実験・調査資料の収集、第7ステップでは資料の整理・分析へと指導していく。本学の各学科・専攻では、資料の整理・分析の

ステップで、SPSS統計パッケージ利用の教育や統計学の授業を必修としている。そして、報告書の作成という最終の第8ステップを指導することになる。この考察段階のステップで再度、心理学「文献データベース」の活用が必要となる。

ここまで本学における心理学的研究の指導の流れを述べてきたが、この流れの中でもっとも教材が不足している第4ステップに注目し、学生の学習や指導に役立つ教材作成を試みた。第4ステップでは、変数となる心理的概念の測定を企画するが、この作業を学生のレベルに応じ、自主的学習を促して完成させることが必要である。学生の学習意欲を動機づけ、効率的に指導ができるよう教育用「心理尺度データベース」を作成し、本学のLAN上で公開した。

多くの学生が気軽にいつでも試行錯誤的に学内LANを通して検索できるデータベースを作成することによって、次のことが可能になると思われる。すなわち学生は、自分の興味関心のある質問内容であるか、自分の研究対象としての変数（心理的概念）を測定できる測定尺度であるかを確認する作業を能率よく進めることができる。また、具体的質問項目を通して自分の研究対象となる心理的概念を明確にしたり、新たな心理的概念を測定する心理尺度を作成したりするのに役立てることができる。

データベースに登録する心理尺度の選択基準としては、尺度を構成する質問項目の原文と回答形式が書かれていること、および学術雑誌に掲載された尺度であること（市販された書籍に掲載されたり、市販されたりしている尺度でないこと）とした。

今回作成した心理尺度データベースでは、従来取り上げられていた「基本的な文献情報」、
「尺度名」以外に、学生にとって心理尺度が測定しようとしている心理的概念の意味内容を理解しやすいように、「尺度構成内容（下位尺度名）」「領域」「質問項目」「回答形式」を追加した。さらに、心理尺度の作成過程を理解したり心理尺度が備えるべき基本的条件を学習できたりするように「尺度の出典情報」「調査対象者の発達段階」「対象者の属性、人数」「尺度を構成するための検討データ（因子分析等）」「標準化あるいは尺度得点結果（平均値・標準偏差等）」「尺度の信頼性検討データ（ α 係数等）」「妥当性の検討データ（他の尺度との相関関係等）」を入力した。また文献を手に入れやすいように「文献所在情報」も入力して学生の便を図った。

「心理尺度データベース」としては、収集すべき研究雑誌の拡大および最新雑誌のデータの追加を今後継続していく必要がある。

Ⅱ. データベース作成の手続き

1. データの収集

「心理尺度データベース」の基本的資料については、筆者の一人（永田）が愛知淑徳短期大学コミュニケーション学科（平成13年9月廃校・廃学科）の卒業研究指導用に心理学の学術雑誌や紀要等から収集して作成した「心理尺度目録」538件を基にした。

2. 文献の収集と選択

「心理尺度目録」に記録されたすべての論文について本学図書館の蔵書および発行元に依頼し収集した。収集された文献（論文）から、今回の作成目的に適した内容が記載されている論文であるかどうかを検討した。その結果、心理学研究（1970～1998）、教育心理学研究（1961～1997）、社会心理学研究（1985～1998）、実験社会心理学研究（1972～1997）、年報社会心理学研究（1969～1983）、教育社会心理学研究（1961～1969）、およびこれらの学会論文集、短期大学・大学の紀要等合計 502論文を選定した。

3. データの構成内容

データベースを構成する内容は、心理尺度の掲載文献を示す「著者」「発行年」「論文題目」「掲載雑誌名」および「巻・頁」、尺度構成内容を示す「尺度名」「尺度構成内容（下位尺度名）」「尺度を構成する質問項目」および「質問項目への回答形式」、尺度作成過程での情報を示す「対象者の発達段階」「性別と人数」「尺度を構成するための検討データ（因子分析等）」「標準化あるいは尺度得点結果（平均値・標準偏差等）」「尺度の信頼性検討データ（ α 係数等）」「妥当性の検討データ（他の尺度との相関関係等）」「尺度の出典情報」「文献所在情報」等で構成されている。

4. データの抜粋

各論文の抜き刷りやコピー原稿からデータベースに必要な情報を含む部分を抜粋した。3.の構成内容のうち「著者」「発行年」「論文題目」「掲載雑誌名」および「巻・頁」「尺度名」「尺度構成内容（下位尺度名）」および「対象者の属性とその人数」「尺度の領域」「尺度の出典情報」「文献所在情報」を心理尺度データベースで検索に用いる文字情報として入力した。次に「質問項目」「質問項目への回答形式」や「尺度を構成するための検討データ（因子分析等）」「標準化あるいは尺度得点結果（平均値・標準偏差等）」「尺度の信頼性・妥当性に関する情報」は再整理し、画像情報として入力した。

5. データベースの公開

本学のLAN上にサーバーを設置（長久手キャンパス新美研究室〔研究棟415号室〕）し、本学の学生がいつでも「心理尺度データベース」を利用できる態勢を整えた。現在、学内LAN上にデータベースとして公開されている「心理尺度データベース」の収録数は、502文献、645尺度である。更に継続して最新でより豊富な「心理尺度データベース」を構築中である。

Ⅲ. 心理尺度データベースの内容

1. 心理尺度データベースに収録した論文・尺度の内訳

収録論文は 502件、収録尺度 645件であり、その学術雑誌別内訳を表 1 に示した。

2. 領域の分類

全尺度を大まかに心理的概念の対象領域によって分類した。そして大分類・中分類・小分類の 3 層に分類した。しかし、学生ができるだけ検索しやすいようにあまり概念のヒエラルキーや幅にこだわらないで分類するように心がけた。大分類は、個人の内面的な意識過程

表1 収録論文・尺度数

掲載誌名	論文数	尺度数
心理学研究	101	117
教育心理学研究	145	194
社会心理学研究	49	68
実験社会心理学研究	48	68
年報社会心理学	11	13
教育社会心理学研究	5	5
社会心理学会発表論文集	43	48
名古屋大学教育学部紀要	40	63
その他紀要等	60	69
合計	502	645

(個人), 個人が他者をどのように認知しているかや他者との関係のもちかた(対人関係), 社会生活をしている人々の心理(社会生活), 社会生活をしていく上で心理的な適応がうまくいかない状態における心理(精神的健康)の4分類である。

個人の中分類は, 自己, 発達, 性格・能力, 認知判断傾向, 欲求・動機, 感情・気分の6分類, 対人関係の中分類は, 他者認知・好意, 対人態度, 対人行動, コミュニケーション, の4分類と, 家族, 学校, 職場の対人関係が行われる場の3分類と, 友人

関係の計8分類とした。社会生活の中分類は, 価値観, 態度, ライフスタイルの3様相と, 集団, 家庭, 職業, 教育, 地域, 社会的活動, マスメディアの7社会生活場面・領域の計10分類にした。精神的健康の中分類は, 適応, ストレス, 不安・恐怖, 問題行動の4分類とした。

小分類については, 学生が検索しやすいであろう用語を使用するように心がけた。

以上の領域(分類)とそれぞれの尺度数は, 以下のようである。

1) 個人【214】

(1) 自己<85>

自己概念(7) / 自己意識(12) / 自己認知(8) / 自尊感情(17) / 自己受容(8) / 性度・性役割(33)

(2) 発達<28>

一体・分離(2) / 依存(3) / 心理社会的発達(1) / 心理的離乳(2) / 独立意識(2) / 同一性(14) / 社会成熟度(1) / 成人性(1) / 自己実現(2)

(3) 性格・能力<28>

性格特性(2) / 性格表現(3) / 乳幼児(2) / Big Five(2) / 開放性・閉鎖性(1) / 向性(2) / 自我強度(1) / 自己愛(3) / 完全主義(2) / 権威主義(5) / 集団主義(1) / 姉妹型(1) / 創造的態度(1) / 頭のよさ(1) / 方向感覚(1)

(4) 認知判断傾向<12>

統制感(9) / 認知的様式(1) / 原因帰属(2)

(5) 欲求・動機<36>

刺激欲求(2) / 認知欲求(1) / 承認欲求(1) / 賞賛欲求(1) / 自己認識欲求(2) / 調和の欲求(1) / 独自性欲求(4) / 地位上昇欲求(1) / 達成動機(7) / 親和動機(1) / 達成・親和動機(2) / 内発的動機(4) / 勢力動機(2) / コンピテンス(4) / 自己効力感(3)

(6) 感情・気分<25>

孤独感(11) / 絶望感(1) / 疎外感(1) / むなしさ(1) / 嫌悪感(1) / 充実感(1) / 生活感情(2) / 多面的感情(1) / 怒り(3) / 音楽(2) / 気分(1)

2) 対人関係【168】

(1) 他者認知・好意<24>

性格 (5) / 行動特性 (2) / 感情 (2) / 勢力 (3) / 親密さ (1) / 相貌 (2) / 魅力 (2) / 恋愛 (1) / 外国人 (1) / 女性 (4) / 子どもの態度 (1)

(2) 対人態度<18>

対人志向 (1) / 対人構え (1) / 信頼感 (1) / 被援助 (2) / プライバシー (2) / 愛着 (2) / 感情 (1) / シャイネス (2) / 恋愛 (2) / 日本文化 (2) / 間人 (2)

(3) 対人行動<33>

ソーシャルサポート (12) / 援助 (7) / 向社会性 (3) / 順社会的行動 (2) / 利己・利他 (1) / 親密さ (1) / 甘え (1) / 影響力 (1) / 治療的場面 (3) / 恋人 (1) / 対人関係欲求 (1)

(4) コミュニケーション<43>

共感性 (6) / 自己開示 (8) / 自己主張 (1) / 自己提示 (12) / スキル (10) / スタイル (1) / 会話 (1) / 発話傾向 (1) / 姿勢 (1) / 動機 (1) / コンピュータ (1)

(5) 家族<27>

夫婦 (4) / 親子 (9) / 母子 (11) / 父子 (2) / 孫-祖父母 (1)

(6) 学校<14>

教師-児童 (4) / 教師-生徒 (5) / 教師-学生 (1) / 児童-児童 (1) / 校長-教師 (1) / 主将-部員 (2)

(7) 職場<5>

上司-部下 (5)

(8) 友人<4>

友人関係 (4)

3) 社会生活【185】

(1) 価値観<18>

価値観 (2) / シュプランガー (1) / モリス (2) / 生き方 (2) / 宗教 (4) / 社会的望ましさ (1) / 道徳 (3) / 礼儀意識 (1) / 異文化 (1) / 近代 (1)

(2) 態度<47>

社会的態度 (5) / 社会意識 (5) / 社会的責任 (2) / 社会イメージ (2) / 政治 (10) / 階層 (1) / 権利・義務 (1) / 死刑 (1) / 異文化 (3) / 時間 (5) / お金 (2) / ペット (1) / 喫煙 (2) / 結婚・恋愛 (2) / 性 (3) / 夢 (1) / コンピュータ教育 (1)

(3) ライフスタイル<18>

ライフスタイル (3) / 老後の生活 (4) / ゆとり (1) / 享楽 (1) / 人並み志向 (2) / 個人・社会志向性 (2) / 購買 (1) / 住い (1) / 都市型 (1) / 勤労者 (1) / 朝型-夜型 (1)

(4) 集団<4>

PM機能 (1) / 凝集性 (1) / 集団参加 (1) / 自尊心 (1)

(5) 家庭<3>

家事分担 (1) / 家族環境 (1) / 雰囲気 (1)

(6) 職業<34>

職業意識・職業観 (6) / 就職活動 (2) / 職業レディネス (6) / 職務特性 (2) / キャリア (7) / 階級意識 (1) / 職場環境 (5) / モラル (1) / 職務満足 (4)

(7) 教育<48>

学校 (7) / 学級 (3) / 学業 (2) / モラル (6) / 学習動機 (2) / 原因帰属 (2) / 学習法 (6) / 授業 (3) / 指導法 (4) / 教師 (3) / 進路 (4) / クラブ (3) / 学生の役割行動 (1) / 期待 (1) / 青少年指導 (1)

(8) 地域<8>

環境問題 (2) / 教育 (1) / 社会生活 (3) / 住民意識 (2)

(9) 社会的活動<2>

環境 (2)

(10) マスメディア<3>

テレビ (1) / 環境 (1) / 嗜好性 (1)

4) 精神的健康【78】

(1) 適応<11>

児童用 (1) / 悩み (1) / 葛藤 (2) / 学校 (2) / 職務 (1) / 異文化 (1) / 敵意・攻撃 (1) / 非現実感 (1) / 不合理な信念 (1)

(2) ストレス<38>

ストレス反応 (4) / 対処 (14) / 性格 (2) / 育児 (2) / 学校 (4) / 職場環境 (7) / 生活 (2) / 対人関係 (3)

(3) 不安・恐怖<15>

一般 (1) / 青年期 (1) / 対人不安 (1) / コミュニケーション (1) / 学校生活 (2) / テスト (3) / 数学 (1) / コンピュータ (1) / 教育実習 (1) / 成功恐怖 (2) / あがり (1)

(4) 問題行動<14>

うつ (3) / 神経症 (1) / 精神障害 (1) / 無気力・アパシー (6) / バーンアウト (3)

IV. 学生の心理尺度データベース利用について

学生が自分の研究の進み具合にあわせて、いつでも学内LANをとおして「心理尺度データベース」が活用できるようなマニュアル「心理尺度データベースの利用方法」を作成した。付録として巻末に掲載したので、データベースの具体的な利用方法についてはこれを参照されたい。

データベースに収録されている情報だけでは、その尺度の取り上げている心理的概念や、その概念と尺度を構成している質問項目との関係、さらには背景となっている理論を理解するには不十分である。このデータベースを学生に利用させる際には、学生が自分の関心にあう心理尺度を見つけた場合には必ず元文献を手に入れて学習させる必要がある。さらに、参考にした心理尺度については必ずその旨を作成する論文等に記載するよう指導されたい。

文献

堀洋道・山本真理子・松井豊（編） 1994 心理尺度ファイル－人間と社会を測る－ 垣内出版

堀洋道（監）・山本真理子（編） 2001a 心理測定尺度集Ⅰ－人間の内面を探る＜自己・個人内過程＞－ サイエンス社

堀洋道（監）・吉田富二雄（編） 2001b 心理測定尺度集Ⅱ－人間と社会のつながりをとらえる＜対人関係・価値観＞－ サイエンス社

堀洋道（監）・松井豊（編） 2001c 心理測定尺度集Ⅲ－心の健康をはかる＜適応・臨床＞－ サイエンス社

<付録>

心理尺度データベースの利用方法

1) WWWブラウザの設定

愛知淑徳大学の学内LAN上のパソコンからインターネットを利用するには、情報センターが指定した Proxy Server を経由して利用することになっている。そのため、学内の学生用のパソコンのWWWブラウザには、Proxy Server の設定がしてある。心理尺度データベースを利用するには、この設定を若干変更する必要がある。その方法を、ネットスケープ・コミュニケーションータとインターネット・エクスプローラについてそれぞれ説明する。

なお、情報センター管轄のパソコン（コンピュータ実習室等）は、起動するたびに設定がリセットされるため、そのたびに下記の設定変更を行わなければならない。

ネットスケープ・コミュニケーションータ Ver.4.x の場合

メニューバーの 編集 → 設定 を順にクリックすると図1のようなダイアログボックスが現れる。

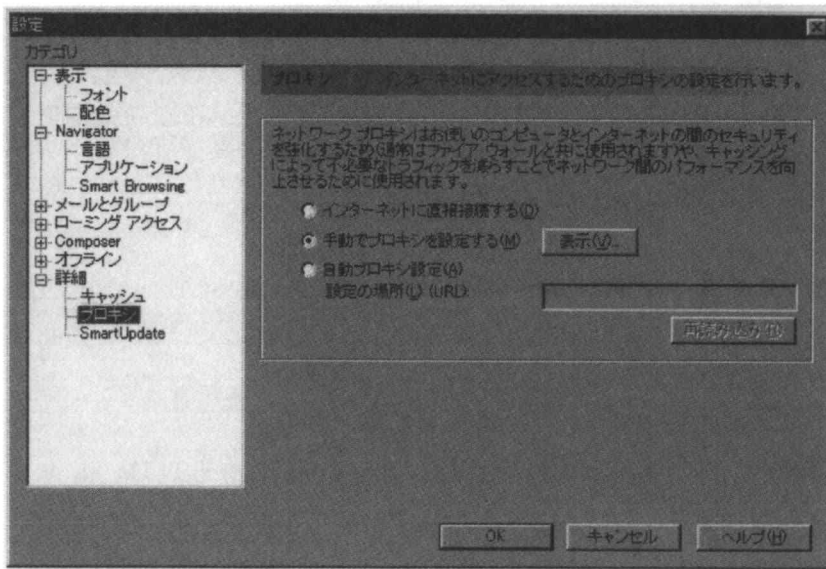


図1 ネットスケープ・コミュニケーションータの「設定」ダイアログ

カテゴリ中の、詳細の前の「+」をクリックすると、「プロキシ」の項目が現れる。

「プロキシ」をクリックすると、ダイアログボックスの右側が図1のようになる。

ここで「インターネットに直接接続する」を指定しても利用できるが、本学の図書館のデータベースには、この設定では利用できないものがある。どちらも利用できるようにするには、下記のように設定する。

「手動でプロキシを設定する」の右側の「表示」ボタンをクリックして、次の画面に移動する。

すると図2のようなダイアログボックスが現れる。

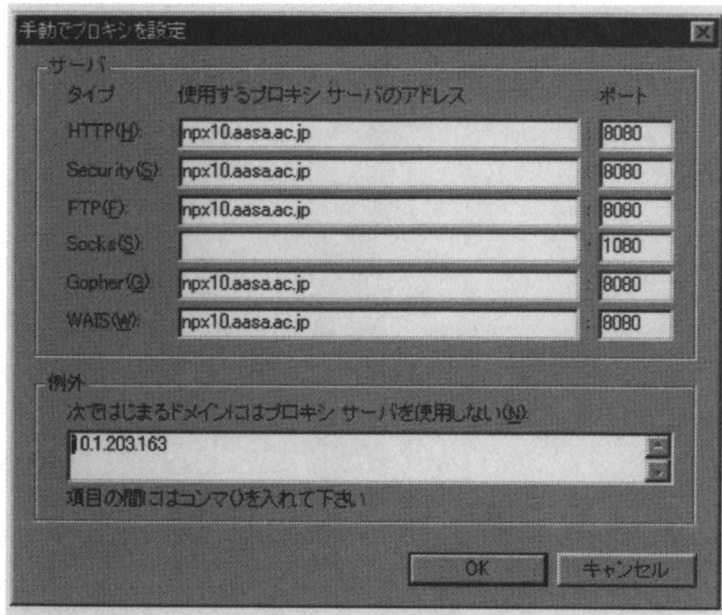


図2 ネットスケープ・コミュニケータの Proxy Server の設定

上側2／3ほどのサーバの設定は、情報センターの指定する proxy server の設定になっているはずである。

下側に、例外の指定があるので、ここに心理尺度データベースを公開しているサーバのIPアドレス「10.1.203.163」を入力する。

入力したら、[OK] ボタンを何回か押して設定を完了する。

インターネット・エクスプローラ Ver.5.x の場合

メニューバーの ツール → インターネットオプション を順にクリックすると、図3のようなダイアログボックスが現れる。

「接続」タブをクリックする。

ダイアログボックスの下部「ローカルエリアネットワーク(LAN)の設定」の欄にある「LANの設定」ボタンをクリックすると、図4のようなダイアログボックスが表示される。

下側の欄の「プロキシサーバーを使用する」にはチェックがされているはずである。

このチェックをはずせば利用できるが、本学の図書館のデータベースには、この設定では利用できないものがある。どちらも利用できるようにするためには、チェックをはずさずに下記のように設定する。

「ローカルアドレスにはプロキシサーバを使用しない」には、チェックをしないようにする。もしチェックするとデータベースが利用できなくなる。

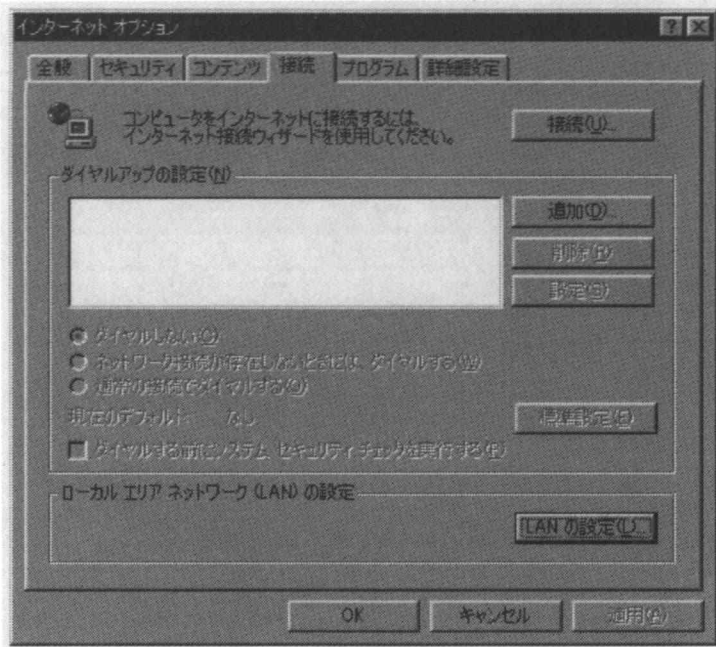


図3 インターネット・エクスプローラのインターネット・オプション・ダイアログ

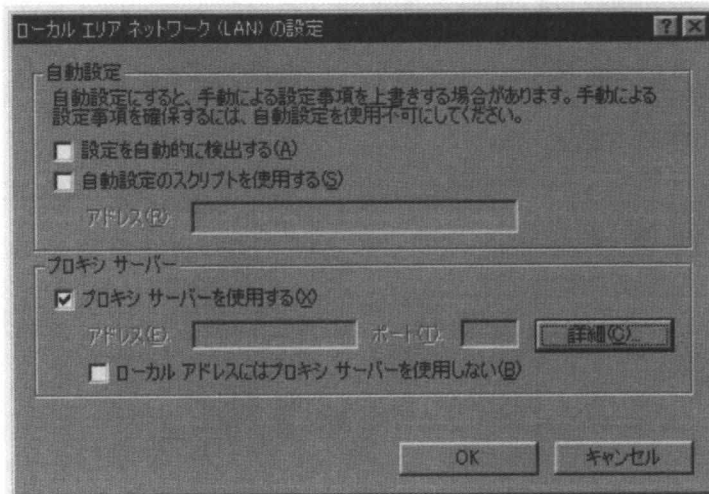


図4 インターネット・エクスプローラのLANの設定ダイアログ

右側の「詳細」ボタンをクリックすると図5のようなダイアログボックスが表示される。上側2／3ほどのサーバの設定は、情報センターの指定する proxy server の設定になっているはずである。

下側に、例外の指定があるので、ここに心理尺度データベースを公開しているサーバのIP アドレス「10.1.203.163」を入力する。

入力したら、[OK] ボタンを何回か押して設定を完了する。

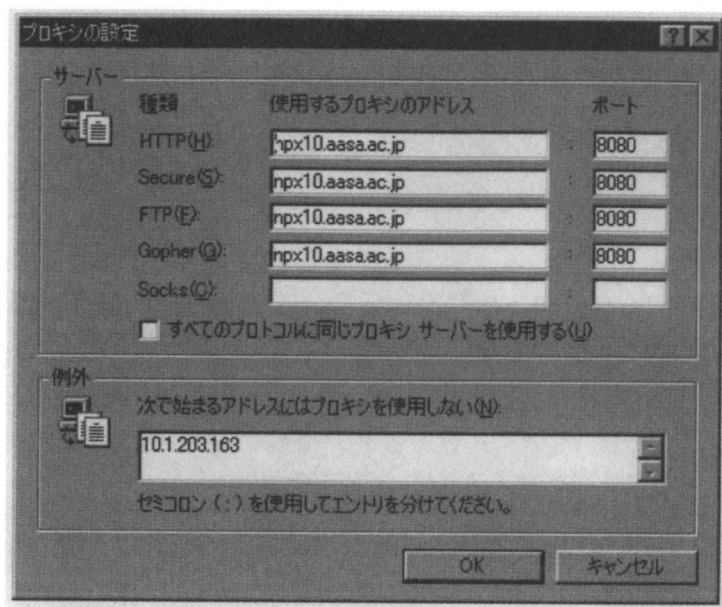


図5 インターネット・エクスプローラのProxy Serverの設定

2) サーバへのアクセス

心理尺度データベースは、愛知淑徳大学の学内LAN上にあるサーバで提供されている。現在の所、このサーバには名前がないので、このサーバにアクセスするためには、直接IPアドレスを指定する必要がある。

ネットスケープ・コミュニケーターでは「場所」ボックス (図6)、インターネット・エクスプローラでは「アドレス」ボックス (図7) に、サーバのIPアドレス「10.1.203.163」を入力する。



図6 ネットスケープ・コミュニケーターでの指定



図7 インターネット・エクスプローラでの指定

IPアドレスを入力後、エンターを押すと、図8のように、サーバのトップページが表示される。

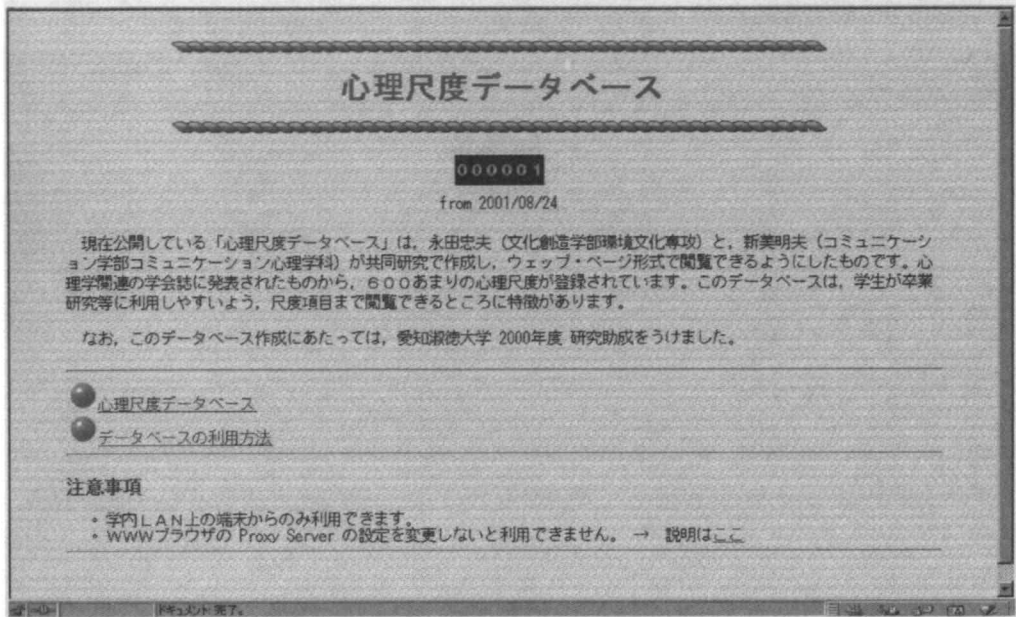


図8 サーバのトップページ

トップページのメニューの中の「心理尺度データベース」が目的のリンクである(図9)。

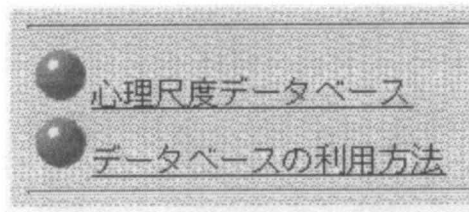


図9 心理尺度データベースへのリンク

「心理尺度データベース」のリンクをクリックすると、図10のようにデータベースの一覧画面になる。

もしエラーが出て目的の画面にならない場合には、ブラウザの設定変更がうまくいっていないためである。もう一度「WWWブラウザの設定」の説明を参照して、設定をし直さなければならない。

一覧表示 心理尺度データベース. fp5			ホームヘルプ	
未ソート 882 レコードのうち 882 を表示			前へ次へ	
詳細表示 検索 全レコードを表示 印刷 ソート	尺度コード	尺度名	構成内容【下位尺度】	対象者発達段階
	1 S0001A	中学校入学にあたっての期待・不安尺度	1. 対人関係での不安 2. 対人関係・学習での期待 3. 部活動での期待と不安 4. 学習での不安 5. 自由への願望	児童期
	2 S0002A	新セルフモニタリング	1. 外向性 2. 他者指向性 3. 演技性	青年期 (大学生)
	3 S0003A	性役割志向性尺度 (ISRO尺度)		成人期
	4 S0004A	現実自己と理想自己		青年期 (大学生)
	5 S0005A	同一性混乱尺度	1. 目標の設定 2. 自己受容 3. 情緒的安定 4. 対人関係の保持	青年期 (大学生)
	6 S0006A	児童用適応性診断検査	1. Adスコア (Adjustment Score) 2. Prスコア (Problem Score) ; (1)反社会的 (2)非社会的 (3)特異的 【自己受容】 1. 将来展望をとまなう自己確信性 2. 自責感をとまなう自己不確実性 3. 自己矮小感をとまなう他者依存性 4. 自己虚飾感をとまなう自己不確実性 5. 他者不信感をとまなう自己中心性 6. 集団圧力感に基づく自己不確実性 7. 場面緊張感をとまなう自己不確実性 8. 対人異和感にとまなう自己不確実性	児童期

図10 心理データベースの一覧画面

3) データベースの検索

心理尺度データベースの公開には、ファイルメーカー社のファイルメーカー Pro 5 を利用している。したがって、利用方法は、このソフトウェアに依存している。

一覧画面では、図10のように25件ずつ心理尺度が表示され、「尺度コード」「尺度名」「構成内容」「対象者発達段階」の内容が示されている。

この一覧画面を操作するボタンが、画面上部と左側にある (図11参照)。

一覧表示		心理尺度データベース. fp5		ホームヘルプ
未ソート		683 レコードのうち 683 を表示		前へ次へ
詳細表示	尺度コード	尺度名	構成内容	
検索				
全レコードを表示				
印刷				
ソート				
26	S0029A	母親の養育態度	1. 権威の厳しさ 5. 子どもの相対的	
27	S0030A	内向一外向	1. 神経症性 尺度 3. 4	

図11 一覧画面の操作ボタン

「次へ」ボタンをクリックすると、次の25件の心理尺度を表示する。

「前へ」ボタンをクリックすると、前の25件の心理尺度を表示する。

「詳細表示」ボタンをクリックすると、詳細画面になり、一覧画面で表示されている最初の

心理尺度の詳しい内容が表示される。一覧画面で、各心理尺度の前についている番号をクリックすると、その心理尺度の詳細画面になる。詳細画面の詳しい説明は、次項の「データベースで提供されるデータ」を参照されたい。詳細画面からは「一覧画面」ボタンをクリックすることで、元へ戻るができる。

「検索」ボタンをクリックすると、図12のような検索画面になり、望みの心理尺度を探すことができる。

フィールド名	タイプ	検索条件
尺度名	で始まる ▼	
構成内容 [下位尺度]	で始まる ▼	
領域	で始まる ▼	
対象者発達段階	で始まる ▼	
対象者性別	で始まる ▼	
著者	で始まる ▼	
発行年	で始まる ▼	
題目	で始まる ▼	
副題	で始まる ▼	
雑誌名	で始まる ▼	
発行所	で始まる ▼	
所在	で始まる ▼	

図12 尺度データベースの検索画面

心理尺度を検索するには、検索画面に必要事項を記入して行う。

データベースには、心理尺度の各種の情報が格納されているが、検索画面には、検索に利用できる情報の名前（フィールド名）が表示されている。ここに表示されている一つ以上のフィールドに、キーワードを記入することで検索を行う。

フィールド名の右横の「タイプ」は、検索の種類を指定する。指定欄の右端の▼印をクリックすると、図13のようにリストが示される。検索に利用するフィールドのデータはほとんどがテキストなので、「含む」が適切である。この場合には、このフィールドに含まれるデータのどこかに、指定したキーワードが含まれるものが検索される。

図13 検索の種類の指定

検索画面上部の「複数の検索条件を同時に満たす(AND)」と「複数の検索条件のどちらかを満たす(OR)」の2つのラジオボタンは、複数の検索条件を指定した場合の検索方法を指定する(図14)。

図14 複数の検索条件を指定した場合の検索方法

複数の検索条件とは、複数のフィールドに対してキーワードを指定した場合、一つのフィールドに複数のキーワードをスペースで区切って指定した場合、またはその両方の場合を含む。一部の条件についてAND、そのほかにはORというような指定はできない。

では、例として「小学校での適応度に、児童の父母の夫婦関係が影響しているかどうか」を検討したいとする。そのために、父母の夫婦関係を測定するための心理尺度を探すことにしよう。ここでは、尺度名に「父母」または「夫婦」の言葉が含まれているものを検索してみる。

図15のように、「尺度名」の横のタイプを「含む」にし、検索条件の欄にキーワードの「父母」と「夫婦」をスペースで区切って入力する。

図15 ネ検索条件の指定

複数の条件を指定したが、このどちらかの条件にあてはまればよいので、「複数の検索条件のどちらかを満たす (OR)」のラジオボタンにチェックを入れる。

左側の「検索実行」ボタンをクリックすると検索が始まり、結果が図16のように、一覧画面に表示される。

心理尺度データベース. fp5			
一覧表示	ホーム	ヘルプ	
未ソート 688 レコードのうち 8 を表示			
詳細表示 検索 全心理尺度表示 リセット	尺度コード	尺度名	構成内容
1	S0053A	父母の養育態度	1. 伝統的 立を含む 性尊重
2	S0192A	1. 夫婦親密性尺度 2. 育児ストレス尺度	
3	S0291A	夫婦の家事分担 (質問項目)	
4	S0463A	孫・祖父母関係評価尺度	1. 存在 情緒的支 促進機能 能
5	S0192B	1. 夫婦親密性尺度 2. 育児ストレス尺度	
6	S0540A	「良好な夫婦システム」尺度	

図16 検査結果の一覧表示

この場合には、6件の心理尺度が検索条件にあてはまったことがわかる。各心理尺度の詳細を見るには、尺度名の左側の番号をクリックすればよい。

6 番の心理尺度「良好な夫婦システム」尺度の詳細画面は図17～19のようになる。かなり大量の情報があるので、画面をスクロールさせる必要がある。それぞれの情報内容の詳細については、次項の「データベースで提供されるデータ」を参照されたい。

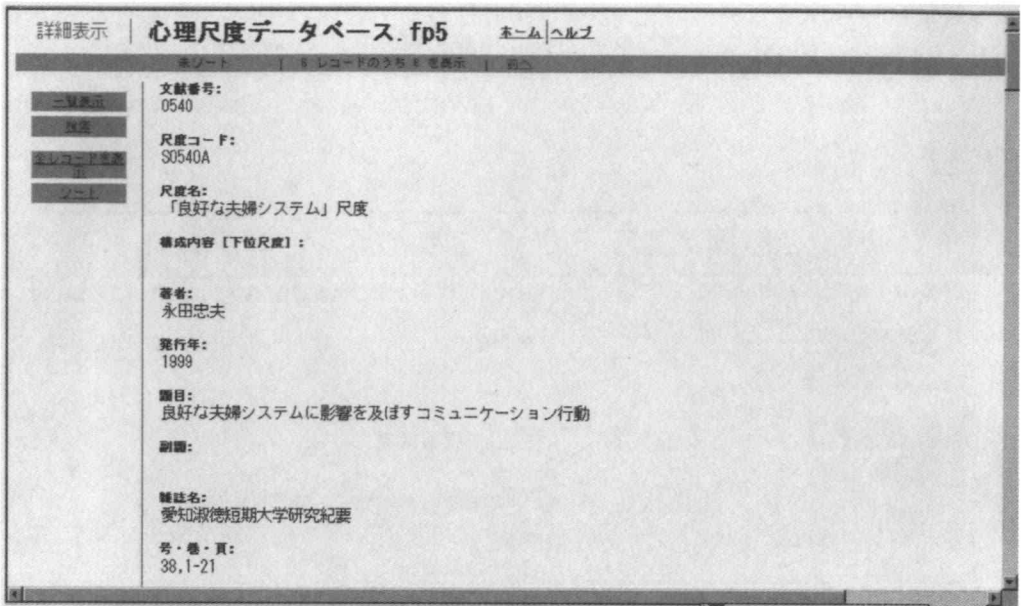


図17 詳細画面表示 最上部

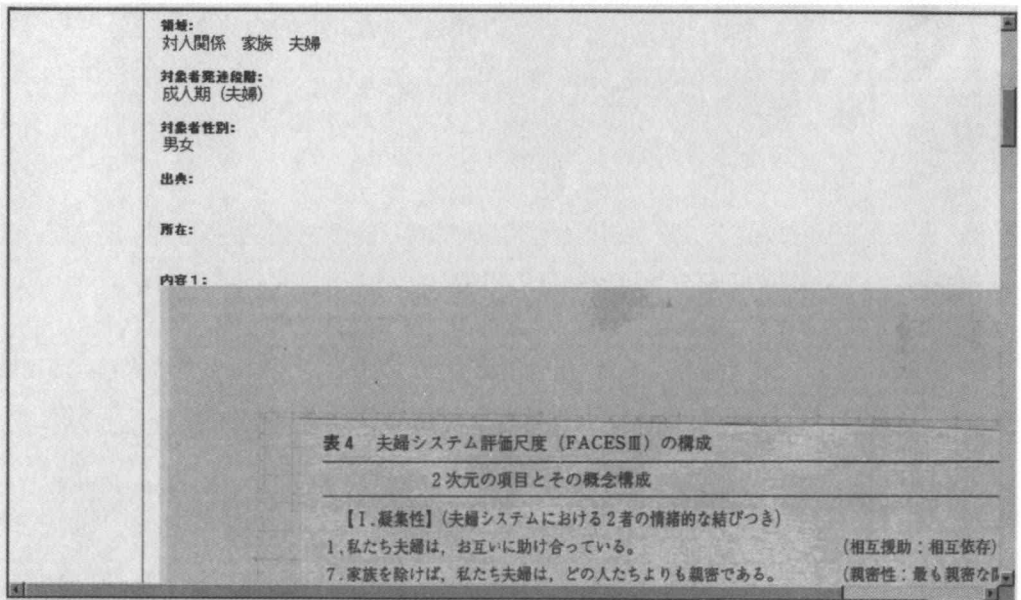


図18 詳細画面表示 1 ページスクロールさせた部分

11. 私たち夫婦は、お互いに親密で信頼しあっている。	(親密性：相互信頼)
5. 夫婦で一緒にいろいろなことをするのが好きである。	(内部境界：共通空間)
9. 私たちは、自由時間を2人で一緒に過ごすことが好きである。	(内部境界：共通時間)
17. 私たち夫婦は、何かを決めるときには、お互いの意見をききあう。	(内部境界：共通意思)
3. お互いに、つれあい(配偶者)の友達も大切にしている。	(外部境界：友人の共有)
13. 私たち2人は、趣味や関心のあることを一緒に楽しむ。	(外部境界：趣味の共有)
15. 夫婦として一緒にすべきことを、すぐに思い浮かべることができる。	(外部境界：興味の共有)
19. 夫婦がまとまりをもっていることが最も大切なことである。	(共同体：夫婦連合)
【Ⅱ. 適応性】(夫婦システムとしての問題解決能力)	
2. 2人の間で問題が生じると、妥協しあう。	(リーダーシップ：自己中心)
18. 2人の間で、どちらがリーダーであると言いきるのはむづかしい。	(リーダーシップ：統率力)
4. 2人の間で意見の食い違いがあっても、それを寛容に認めあっている。	(話し合い様式：他者中心)
12. 生活してゆく上で決めなくてはならないことは、2人で一緒に決める。	(話し合い様式：合議型)
8. 家事がうまくやっけていけるように、夫婦で工夫しあっている。	(ルール：解決手段の共有)
10. 何か問題が生じたとき、私たちは今までのやり方にこだわらずに解決しようとすることができる。	(ルール：解決方法の共有)
14. 私たち夫婦は、生活での約束ごとをしっかりと定規には考えない。	(ルール：約束ごとの共有)
6. 2人の関係においては、時と場合に応じてリーダー役を交代しあう。	(役割交代：リーダー)
16. 私たちは、家事をする役目を交代することができる。	(役割交代：家事の役割)
20. 私たち夫婦の間では、どちらが家事をすべきかを決めてはいない。	(役割分担：家事)

図19 詳細画面表示 2 ページスクロールさせた部分

検索に関する注意事項

心理尺度データベースでは、公開に利用しているソフトウェア（ファイルメーカー Pro 5）の仕様上の制限によって、検索結果に対して、さらに検索を行うことはできない。検索画面を表示するたびに、検索指定はリセットされるので、検索結果のさらなる絞り込みをするには、前回の検索条件を覚えておき、条件を追加して指定する必要がある。

4) データベースで提供されるデータ

ここでは、心理尺度データベースに含まれる情報の各項目（データベースでは「フィールド」と呼ばれる）について説明する。効率のよい検索をするために参考になるだろう。詳細画面での表示順に説明する。

「文献番号」「尺度コード」

データベース作成の際につけた整理番号なので、利用者にとっての意味はあまりない。取り上げた文献には通し番号が付けられており、抽出された心理尺度には、順にA, B, C…の記号が振られている。尺度コードの末尾に「(2/2)」などの数字がついていることがあるが、これは情報量が多くて、1件のデータに入りきらない場合に、何件中の何番目のデータであることを示している。一つの心理尺度が複数のレコード（詳細表示で示される1件分のデータをレコードという）にまたがる場合には、後述の「内容の続き」に、「あり」の記入がある。

「尺度名」

取り上げた心理尺度の正式な尺度名である。

「構成内容 [下位尺度]」

心理尺度は、必ずしも単一の尺度であるとは限らない。ある心理特性を捉えるのに、いろいろな側面から測定を試みることをよくする。したがって、理論的な構成を元にして、あらかじめ複数の領域が想定されていたり、因子分析などの手法を使って、構成項目がいくつかの下位尺度に分類されていたりする。そのような心理尺度の構成内容や、下位尺度があれば、その名称を記入している。したがって、尺度名だけでは明らかなではない、心理尺度の詳しい内容がわかることがある。ただし、単一の尺度のものには記入がないことに、検索時には気をつけること。

「著者」

収録した心理尺度が作成ないしは紹介されている論文の著者名。

「発行年」

収録した心理尺度が作成ないしは紹介されている論文の発行年。このフィールドについては、検索時のタイプとして、「等しい」「大きい」「大きいか等しい」「小さい」「小さいか等しい」「等しくない」を使うことができる。1990年以降の論文のみを検索する、などということができる。

「題目」「副題」

収録した心理尺度が作成ないしは紹介されている論文のタイトル、サブタイトル。

「雑誌名」「巻・号・頁」

収録した心理尺度が作成ないしは紹介されている論文が掲載されている学術雑誌等の名称および、巻・号数、掲載されているページ。文献のオリジナルを探す時に必要になる。

「領域」

収録されている心理尺度を、その対象領域によって、分類した結果を示す。領域は、末尾に示した表のように、大分類・中分類・小分類の3つのキーワードで示される。利用者の興味のある領域の心理尺度にはどのようなものがあるのかの見当をつけるのに、おおいに役立つ。「尺度名」での検索結果が思わしくない場合などにも利用するとよい。

「対象者発達段階」

心理尺度が適用される対象者の発達段階が、「幼児期」「児童期」「青年期（中学生・高校生・大学生）」「成人期」「老年期」で示される。ただし、測定する心理特性をもつ人と、尺度の直接の対象者が異なる場合には、後者の属性が示される。例えば、幼児の心理特性について、母親が答える場合には、母親の属性が記入されている。

「対象者性別」

前項の「対象者発達段階」と同様に、心理尺度が適用される対象者の性別が示される。なお尺度構成時の対象者数も記載されている。

「出典」

収録されている心理尺度が作成された文献が別にある場合には、その文献の出典情報が示

されている。

「所在」

長久手キャンパス、および星が丘キャンパスの図書館に、収録した心理尺度が作成ないしは紹介されている論文が掲載されている学術雑誌が所蔵されているかを示す。所蔵されている場合には、「長久手」「星が丘」と記載してある。

「内容1」～「内容5」

心理尺度の具体的な内容が、画像データで表示される。このフィールドのデータは検索作業の対象にすることはできない。収録されている内容は、「質問項目」「質問項目一覧」、尺度構成結果（因子分析結果等）、標準化データ、信頼性・妥当性検討結果、等である。その心理尺度の概要を知るのに十分な情報が示される。情報は、B5版用紙大の画像で最大5枚まで表示される。情報内容が5枚の画像で収まりきらない場合には、次のレコードにわたって表示される。

「内容の続き」

前項で述べたように、心理尺度の情報内容が5枚の画像で収まりきらない場合には、次のレコードで、引き続き情報が提示されるが、表示内容の続きがあるかどうかを示す。続きがある場合は、「あり」の記入がある。

表 心理尺度の領域分類

大分類	中分類	小分類
個人	自己	自己概念／自己意識／自己認知／自尊感情／自己受容／性度・性役割
	発達	一体・分離／依存／心理社会的発達／心理的離乳／独立意識／同一性／社会成熟度／成人性／自己実現
	性格・能力	性格特性／性格表現／乳幼児／Big Five／開放性・閉鎖性／向性／自我強度／自己愛／完全主義／権威主義／集団主義／姉妹型／創造的態度／頭のよさ／方向感覚
	認知判断傾向	統制感／認知的様式／原因帰属
	欲求・動機	刺激欲求／認知欲求／承認欲求／賞賛欲求／自己認識欲求／調和の欲求／独自性欲求／地位上昇欲求／達成動機／親和動機／達成・親和動機／内発的動機／勢力動機／コンピテンス／自己効力感
	感情・気分	孤独感／絶望感／疎外感／むなしさ／嫌悪感／充実感／生活感情／多面的感情／怒り／音楽／気分
対人関係	他社認知・好意	性格／行動特性／感情／勢力／親密さ／相貌／魅力／恋愛／外国人／女性／子どもの態度
	対人態度	対人志向／対人構え／信頼感／被援助／プライバシー／愛着／感情／シャイネス／恋愛／日本文化／間人
	対人行動	ソーシャルサポート／援助／向社会性／順社会的行動／利己・利他／親密さ／甘え／影響力／治療的場面／恋人／対人関係欲求
	コミュニケーション	共感性／自己開示／自己主張／自己提示／スキル／スタイル／会話／発話傾向／姿勢／動機／コンピュータ
	家族	夫婦／親子／母子／父子／孫－祖父母
	学校	教師－児童／教師－生徒／教師－学生／児童－児童／校長－教師／主将－部員
	職場	上司－部下
	友人関係	友人関係
社会生活	価値観	価値観／シュブランガー／モリス／生き方／宗教／社会的望ましきさ／道徳／礼儀意識／異文化／近代
	態度	社会的態度／社会意識／社会的責任／社会イメージ／政治／階層／権利・義務／死刑／異文化／時間／お金／ペット／喫煙／結婚・恋愛／性／夢／コンピュータ教育
	ライフスタイル	ライフスタイル／老後の生活／ゆとり／享楽／人並み志向／個人・社会志向性／購買／住い／都市型／勤労者／朝型－夜型
	集団	PM機能／凝集性／集団参加／自尊心
	家庭	家事分担／家族環境／雰囲気
	職業	職業意識・職業観／就職活動／職業レディネス／職務特性／キャリア／階級意識／職場環境／モラル／職務満足
	教育	学校／学級／学業／モラル／学習動機／原因帰属／学習法／授業／指導法／教師／進路／クラブ／学生の役割行動／期待／青少年指導
	地域	環境問題／教育／社会生活／住民意識
	社会的活動	環境
	マスメディア	テレビ／環境／嗜好性
精神的健康	適応	児童用／悩み／葛藤／学校／職務／異文化／敵意・攻撃／非現実感／不合理な信念
	ストレス	ストレス反応／対処／性格／育児／学校／職場環境／生活／対人関係
	不安・恐怖	一般／青年期／対人不安／コミュニケーション／学校生活／テスト／数学／コンピュータ／教育実習／成功恐怖／あがり
	問題行動	うつ／神経症／精神障害／無気力・アパシー／バーンアウト